

連載：原点

「夢の続き」

佐原高等学校 石川 智之

念願であった教師の職業について1年3ヶ月あまりが経過しました。去年は大学卒業後に、多古高校において臨時的任用講師として働いていましたので、今年は教員2年目ということになります。

私が教師になりたいという夢を持ったのは、中学2年生の時でした。当時の私の先生方は、とても熱心で授業もわかりやすく、尊敬できる人ばかりでした。そんな先生方を見て、私も教師という職業を将来の仕事にしたいと強く思っていたのを、今でも鮮明に覚えています。

大学4年生のときに、私は教員採用試験を受け、二次試験で落ちました。「自分がこんなになりたいと思っても、試験に落ちてしまうのか。」と、かなり落ち込んだのを覚えています。夢であった教師になれないとわかった瞬間の落胆は、言葉では言い表せないものでした。

そんな中、大学の卒業式の日には当時の多古高校の校長先生からお電話をいただき、臨時的任用講師として、働かないかという連絡をいただきました。教師としての道がまだ閉ざされていなかったという喜びから、モチベーションが高まってきたのを覚えています。そこから、多古高校で働きながらの、2度目の教員採用試験へのチャレンジが始まりました。1次試験を無事突破し、2次試験の合格通知が届いた日は、とても興奮しました。自分が認められたことが嬉しくて、涙が出ました。

現在勤務している佐原高校と前任校である多古高校では、役割が大きく違うことを感じています。生徒一人一人のニーズに合った教育をすることが、とても重要だと思います。ただ、どんな生徒に対しても、情熱と誠意を持って接することを忘れないようにしたいです。

私が中学生のとき抱いていた「教師になりたい」という夢は叶いました。今は「生徒にわかりやすく数学を教えたい。」「部活動を通して人間性を生徒につけさせたい。」「部活動を強くしたい。」などの夢を持って、日々教育活動を行っています。これからの長い教員生活でこの新たな夢を叶えられるように、精一杯努力していこうと思います。

「初心に戻って」

君津高等学校 長嶋 亜希子

小学6年生の時にお世話になった担任の先生に憧れて目指した教員の道。学生時代は「自分は教員に向いているのだろうか」、「別の職業に就いた方がよいのではないかなど、進路選択で悩みましたが、今はこの道を選んで本当に良かったと心から言えます。その理由はこの職業を通じてたくさんの方と出会い、様々なことを学ぶことができたからです。

大学卒業後、私は5年間私立高校で勤務しました。その間、先輩の先生方から教科指導や生徒指導に関する助言を頂きました。その中で今でも忘れずに心がけていることは、「数学を楽しむ(数楽する)」ことです。

赴任して間もない頃、先輩の先生方の授業を見学させて頂きました。どの先生も楽しそうに数学の授業をしており、生徒の活動や発言も盛んでした。教員と生徒がまさに「数楽」している姿がそこにはありました。この光景が非常に印象的で、今でもその授業を自分の理想としています。あれから6年経った今、私が生徒と「数楽」ができているとはまだまだ言えませんが、知識と経験を積み、私立高校でお世話になった先生方にいつの日か褒めて頂けるようになりたいと思っています。

君津高校に赴任してまだ日が浅いですが、元気な生徒と素晴らしい先生方と共に毎日充実した生活を送ることができています。この1年間は初心に戻る年とし、何事にも新たな気持ちで取り組んでいきたいと考えています。

「夢を実現して」

浦安高等学校 柿本 康太

今年の3月に大学を卒業し、4月から教員として働き始めました。教えられる側から教える側に立場が変わり、やっていけるのだろうかと不安になることもありました。また途中で挫折しそうになることもありました。しかし、今はそれ以上に新しい発見や驚きの連続の毎日を過ごしています。昔からの夢だった教員になって、約半年が過ぎ、これまでの教員生活を振り返ってみました。

最初の授業では、教育実習以来の久しぶりの授業に緊張していたことを覚えています。最近では少しずつ慣れてきましたが、毎回のように教えることの難しさを痛感しています。現在、勤めている浦安高校は数学を苦手とする生徒が多くいます。私自身は、数学に対して苦手意識を持ったことがなかったので、生徒たちの「何がわからないのか」がわからないことさえもありました。自分では理解していることを生徒に伝えられなかったり、生徒の反応が予想外だったり戸惑うことばかりでした。そのようなとき、「生徒の目線で考える。」「授業が上手くないときは、とにかく教材研究をしっかりとる。」などと先輩の先生方から助言を頂きました。

先輩方の助言のとおり、「何がわからないのか」また「どこがわかりにくいのか」など、「どうすれば生徒がわかりやすいのか」を考え、しっかりと教材研究をしなければならぬと、日々の授業から実感しています。今は四苦八苦しながら授業をしていますが、生徒からの「先生ありがとう、この問題できたよ。」という言葉や、苦手な数学に真剣に取り組む生徒の姿を自分の活力にしながら日々過ごしています。

教員としてまだ未熟な私ですが、先輩方から様々なことを学び成長しています。自分の理想の教師像に近づけるよう、努力し続けたいと思います。